

令和元年度「西脇知事と行き活きトーク」における主なご意見と京都府の対応

(令和2年3月現在)

回	開催日・場所	テーマ	ご意見等	京都府の対応(施策化・検討状況)
8	令和元年 5月8日 天橋立	府北部における インバウンド観光 について	<ul style="list-style-type: none"> ・海やビーチの綺麗な写真をSNSで見て実物を見たくて来た。知人に紹介され興味を持って来た。 ・京都市内のことは地元の国でも有名だが、天橋立のことは知らなかった、もっとPRしてはどうか。 ・若い働き手が不足している。 ・天橋立駅が新しくなって界隈を周遊してもらえる動線ができた。行政にはそういった観光インフラの整備に今後も力を入れてほしい。 	<p>令和2年度当初予算に、「もうひとつの京都」ブランド化推進事業費(49,573千円)を計上し、「もうひとつの京都」の魅力国内外へ発信するとともに、国内外からの旅行者や地元地域が「もうひとつの京都」を体感できる環境整備を進める予定です。</p> <p>具体的には、『「もうひとつの京都」多言語Webサイトのリニューアル』により、外国人目線で外国人の翻訳による情報の提供や特集記事の掲載、SNSを活用したこまめな発信などを行い、「海の京都」の外国人向け観光情報の発信を強化してまいります。また、『「もうひとつの京都」見える化促進』により、各地域内を運行する鉄道、バス、タクシーの公共交通機関の車両へのロゴマークの掲出等民間事業者を巻き込んだ地域一帯での観光地域づくりを推進します。</p> <p>また、『「もうひとつの京都」ステップアップ推進事業』を継続して実施(令和2年度当初予算13,000千円)し、広域周遊の拠点施設の整備等を促進してまいります。</p>
9	令和元年 5月8日 府立海洋高 校	海洋高校での生 活や将来につい て	<ul style="list-style-type: none"> ・小さいころから水族館や釣りが好きで、将来は海関係の仕事に就きたいと入学した。 ・海洋高校は、自分のやること全てが将来に繋がる。テスト対策や資格取得のための勉強、部活で忙しくて大変。女子生徒にとっては水産業は体力面で厳しい。 ・引き揚げ作業や岩がきを1個ずつに分ける作業などが機械化できれば時間短縮になるが、洗浄作業は人間の手でないと難しい 	<p>水産業における省力化を進めるため、丹後とり貝や岩がきの養殖における体への負担を軽減する補助機具(アシストスーツ)やICT技術を活用して海上から水中の養殖魚や貝類の状況を把握し、育成管理を高度化するシステムなどスマート技術の導入に取り組む生産者の皆さんを支援してまいります(「スマート農林水産業実装チャレンジ事業費」令和2年度当初予算50,000千円計上)。</p> <p>なお、若者が就業しやすい労働環境づくりには、経営体の収益確保が第一歩となることから、商工部門の専門家などと連携した相談会や研修を実施するなど、経営改善の取組を支援していきます。</p>
10	令和元年 6月8日 宇治	お茶の京都エリ アにおけるインバ ウンド観光につ いて	<ul style="list-style-type: none"> ・宇治茶が地元の台湾で有名で、本場でお茶を買いたくて来た。 ・京都には行ったことがあるが、宇治に来たのは今回が初めて ・駅や道路の案内表示が少なく、迷ってしまった。 ・山、川に囲まれたロケーションを活かした、様々な方が楽しめるアクティビティなどがあれば。 ・宇治で長時間過ごす方が増えているので、周遊先の紹介、PRが必要。 	<p>市町村が実施する戦略拠点の整備等に対する助成制度『「もうひとつの京都」ステップアップ推進事業』において、外国人旅行者向け「多言語サイン設置枠」を設定し、各地域で必要とされる案内表示の充実に対して支援してまいります。</p> <p>また、令和元年度から、お茶の京都DMOでインスタグラムやフェイスブックなどを活用した情報発信にも取り組んでいるところであり、令和2年度は「もうひとつの京都」多言語Webサイトのリニューアルの予算を計上(16,863千円)、外国人の翻訳による情報発信や特集記事の定期掲載を行うなど、周遊先の紹介やPRの取組みの充実を図ってまいります。</p> <p>様々な楽しみ方ができるよう、「京都・花灯路」など認知度の高いイベントと連携した「京都・宇治灯り絵巻2020」の開催や、お茶の京都エリアでの寺院・神社の夜間拝観やライトアップ事業との連携など、ナイトツーリズムによる周遊・滞在型観光を促進します。</p> <p>また、木津川や豊かな自然を活かしたアクティビティづくり及びその収益事業化支援や「京都きづ川アクティビティフェスタ」を開催することで、お茶の京都エリア(特に相楽東部)への誘客を図る取組を進めています。</p>
11	令和元年 6月8日 府立茶業研 究所	宇治茶の魅力に ついて	<ul style="list-style-type: none"> ・お茶の摘み子さんが年々減ってきている。 ・大雨・洪水で由良川沿いの茶園がよく水に浸かる。今後洪水とどのように向き合っていくか悩んでいる ・茶業経営を六次産業化して、新たな農業の雇用を創出したい 	<p>京都府では、お茶の収穫期など一時的に労働力が不足し、お困りになっている農業者の方への支援として、平成28年度から「京都援農隊」として農業者の力になりたいという方を募集・登録し、人手を必要とする農業者とマッチングさせる取組を実施しており、これまで、5戸の農業者の茶園で、のべ35名の方が茶摘みの援農活動を行っております。(「援農マッチング支援事業」令和2年度当初予算2,900千円)令和2年度についても、引き続き、お茶の摘み子さんの減少で、お困りになっている農業者の方への支援に取り組むこととしております。</p> <p>また、台風や大雨により甚大な被害が発生した場合は、農業者の早期復旧・復興を図るため、農業改良普及センターによる技術指導など伴走支援を行うとともに、茶園の樹勢回復に向けた肥料や農薬の購入経費や、農業用資材等の購入、機器等の修繕や出荷額の回復につながる販売活動等に要する経費の支援等にも取り組んでいるところです。</p> <p>由良川では、河川改修や排水機場の整備など総合的な治水対策が進められておりますが、今後、大雨による被害低減のためには、茶園の移転も視野に入れて検討することも必要となるのではないかと考えられます。</p> <p>京都府では、農地中間管理機構を通じて、農地の賃借を行い、農地の集積・集約化など農業の生産性向上を図る事業や、茶樹の新植や改植に対する支援にも取り組んでおり、今後も、市町村や関係機関と連携しながら、農業者の経営計画やニーズなどに応じて、技術・経営支援や各種事業の提案等、伴走支援をしてまいりたいと考えております。</p> <p>さらに、茶業経営を6次産業化するなど、意欲ある担い手や新規就農者、小規模でも特色のある経営にチャレンジする農業者等を支援するため、府内5地域で「京の農業応援隊」を結成し、伴走支援を行うとともに、商工関係団体との連携により、アグリビジネスによる商品開発から販路開拓までを一貫して支援を行っています。</p> <p>これまでに、「茶葉を使ったお菓子の開発・販路開拓」や「高級な茶葉を原料にしたプレミアムボトルティの開発」などを支援しており、令和2年度についても引き続きチャレンジする農業者の方への支援に取り組むこととしております。(「京都6次化ビジネス支援事業費」令和2年度当初予算85,800千円)</p>

12	令和元年 7月15日 南丹	森の京都における観光の現状	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットで検索し美山を見つけ、美しいかやぶきの屋根を見に来た。 ・京都市内からは少し距離があるが、山に囲まれた自然があって良いこのままの感じを残しつつ、さらに良くなってほしい。 ・日本にも京都にも何度も来ているが、景観が保全され、自然豊かな美山に興味を持ち訪れた。 ・美山の道の駅にはレストランがない。館内でゆっくりくつろげる、食事を提供できるような場所があれば ・周遊してもらうためには、森の京都の他のDMOと一体になって何か出来れば良いと思う ・かやぶき屋根は保持するだけでもコストがかかる。一人住みの家の置き替えは大変。府としても何か協力頂ければありがたい。 ・高齢化に伴い空き家が出てくる可能性もある。空き家を守っていくしくみも考えないといけない。 	<p>森の京都DMOでは、地元の美山DMOと一緒に、国内はもとより海外からの誘客を図るためにプロモーションや、京都市観光協会(DMO)と連携して、訪日外国人が集中する京都市からの周遊ツアーの企画などに取り組んでおり、新たに、令和2年度当初予算に、「もうひとつの京都」ブランド化推進事業費(49,573千円)を計上。「もうひとつの京都」の魅力在国内外へ発信するとともに、国内外からの旅行者や地元地域が「もうひとつの京都」を体感できる環境整備を進める予定です。</p> <p>具体的には、『「もうひとつの京都」多言語Webサイトのリニューアル』により、外国人目線で外国人の翻訳による情報の提供や特集記事の掲載、SNSを活用したこまめな発信などを行い、外国人向け観光情報の発信を強化してまいります。また、『「もうひとつの京都」見える化促進』により、各地域内を運行する鉄道、バス、タクシーの公共交通機関の車両へのロゴマークの掲出等民間事業者を巻き込んだ地域一帯での観光地域づくりを推進します。</p> <p>また、京都丹波のおすすめスポット等を紹介する動画を作成して、YouTubeやサービスエリアでPRし、誘客を促進する取組を行ったほか(平成31年度当初予算「周遊・滞在型観光推進事業、京都丹波ブランド発信事業」計1,000千円)、「広域観光推進事業」として令和2年度当初予算1,230千円の計上を予定しており、関係市町と取り組む京都丹波観光協議会や大丹波観光推進委員会、森の京都DMOと連携して、管外でPRイベントを実施するなどにより、周遊・滞在型観光やインバウンド旅行者の京都丹波への呼び込みを促進していきます。</p> <p>かやぶき屋根の保持・活用については、府内の重要伝統的建造物群保存地区の適切な保存を図るため、伝統的建造物群の保存事業を支援する市町村に対して補助をしているところであり(間接補助)、引き続き、地元市町村を通じて支援してまいります。(「重要伝統的建造物群保存地区保存事業費補助金」令和2年度予算6,900千円。平成30年度実績2,300千円(南丹市:美山北地区))</p> <p>また、平成28年度に制定した「京都府移住の促進のための空き家及び耕作放棄地等活用条例」に基づき、「移住促進特別区域」を指定し、地域の新たな担い手となる移住者向けに、空き家改修、不動産取得税の軽減などをパッケージで支援しています。(「移住促進住宅整備事業」令和2年度当初予算64,800千円)</p> <p>さらに、伝統的建造物や古民家の空き家を宿泊施設に活用するため、「伝統的建造物活用宿泊施設整備推進事業」を令和元年度創設し、周遊観光の拠点となる宿の開業を通じて、観光消費額の増大や地域活性化の取組を進めており、引き続き取組の拡大を図ってまいります(令和2年度当初予算3,000千円)。</p>
13	令和元年 7月16日 菊の花幼稚園	子育て	<ul style="list-style-type: none"> ・共働きなので延長保育や長期休暇中の預かり保育の充実が助かる ・子どもが発病時の医療面や預け先などの支援体制を充実してほしい 	<p>延長保育、一時預かり、病児保育等の事業については、これまでからも、実施主体である市町村と連携し、多様なニーズに対応できる環境の整備を進めてきたところです。共働き世帯の増加等により、特にニーズの増加が見込まれる病児保育については、病児保育の受皿拡大のため、市町村の実情に応じた施設整備や運営費等を支援するため、令和2年度予算において、164,356千円を計上しております。</p> <p>子育て世代が安心して子どもを産み育てられるためには、経済的な不安を軽減することが重要であると考えています。子育て中の家庭に対しては、平成27年度から開始しました3人目の保育料無償化事業をはじめ、令和元年9月には、子どもの医療費助成の通院自己負担の軽減を行っているところです。また、新たに3世代近居支援の拡充や子育てに優しいまちづくりへの支援などの新規事業にも取り組んでまいります。</p>
14	令和元年 7月16日 二九精密機械工業(株)	子育て	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校卒業まで時短勤務が認められているので、子どもの帰宅を出迎えられ、親子ともども安心できた ・時短勤務中も役職を解かれなないので、安心して仕事と子育てを両立できる 	<p>○主な経済的負担の軽減施策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3子以降保育料無償化事業(R2年度予算 247,000千円) ・京都子育て支援医療助成(R2年度予算 2,365,450千円) ・結婚・子育て応援住宅総合支援事業(R2年度予算 38,000千円) ・京の子育て応援総合融資事業(R2年度予算 300,000千円) ・少子化対策条例を用いた不動産取得税の軽減(H28年度～)
15	令和元年 7月16日 (株)ウエダ本社	子育て	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てで費用の目安が分からない。行政からのサポートがあれば安心感につながり第2子以降につながるのでは ・育児に関する行政の各種支援策について、正確かつ容易な情報提供をしてほしい。 	<p>○育児に関する行政の各種支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援情報の発信(子育てQ&A: http://www.pref.kyoto.jp/kosodateqa/) ・京都で育む子育て応援パスポート事業(R2年度予算 1,989千円) (H17年度～ 企業・店舗・行政が協働し、子育て家庭を応援、アプリで情報発信) ・きょうと子育てピアサポートセンターポータルサイト(https://kyoto-kosodatepia.jp/) 京都府の妊娠・出産・子育て支援情報をエリア・年齢・サービス等で検索 ・きょうと子育てピアサポートセンター公式フェイスブックで情報発信
16	令和元年 8月3日 長岡京	竹の里・乙訓における観光の現状	<ul style="list-style-type: none"> ・穴場だと思って来られる観光客も増えてきている。賑やかになって良い。外国人観光客も少しずつ増えてきている。 ・そこに住む人が満足して良い街だと思っからこそ、おもてなしの心が生まれてくると思う。 	<p>乙訓地域は、大阪と京都の中間に位置し、かつて「長岡京」が置かれた地であり、随所に歴史的遺産や自然が数多く今も残っているため、集客の余地はまだあると考えています。</p> <p>令和2年度当初予算において「京都・がくや姫観光推進事業費」1億7千万円余を計上、乙訓特産の「竹」や乙訓ゆかりの歴史、文化、自然等の豊かな地域の魅力の発信を市町等と協働・連携して推進します。また、大河ドラマ「麒麟がくる」推進協議会の様々な事業を通じて、観光客誘致の取組を進め、更なる地域のPRと地域の発展に寄与することとします。</p>

17	令和元年 8月5日 海の民学舎	農林水産業の人 材育成	<ul style="list-style-type: none"> 海のある生活をしたいなと思ったときに、人材不足の漁師を選んだ。学舎で学べるのはありがたい。 やり方次第では良い職業です。いつかは民宿運営もしたい。 10年20年先を見据えると労働力確保が大変。 「海の民学舎」を志望する若者がもっと増えてほしい。 	<p>京都府では、漁業者としてのスキルを学び、府の漁業と漁村を支える人材を育てる京都府漁業者育成校「海の民学舎」を漁業関係団体、行政、そして漁村の人達の協力体制で設置しており、学舎生の皆さんの研修から就業だけでなく、住居の確保、経営力向上講座による経営支援、漁船・漁具取得のためのリース制度による支援など、全面的にバックアップしています。</p> <p>また、学舎生の募集については、専用ホームページや府民だより、FMラジオ等で入舎募集のPRを行ってきたところですが、本年は、更に募集開始及び受検時期の早期化や、募集回数の増加に加え、高速道路SA広告の強化や高校訪問機会の増加を行ってきました。また、新たにフェイスブック等のSNSを活用し、引き続き情報発信に努め、学舎生を確保していくこととしております。</p>
18	令和元年 8月5日 農業大学校	農林水産業の人 材育成	<ul style="list-style-type: none"> ブランド化にはお金も時間もかかる。今あるブランドを守るには人材育成が課題。ブランド化することで野菜などの良さを知ってもらえると思う。 	<p>平成元年から始まった京野菜等の「京のブランド産品」の取組は、生産者、JA、流通関係者、小売業者、料理店など様々な方々の努力により、現在では府内だけでなく首都圏、海外にも販路を拡大しており、京都府としても高品質なブランド産地の拡大に一層取り組むこととしております。</p> <p>これらの担い手として期待される農業大学校の学生の皆さんには、こうした収益性が高くブランド力のある京野菜や宇治茶の生産技術はもちろん、経営力向上に結びつく先進的な農業法人で実習をはじめ、市場見学、商工団体との連携・交流を通じての加工、販売まで幅広く学んでいただくとともに、対応力を養うための実践プロジェクトにも取り組んでいただいております。</p> <p>さらに、今年度からは、IoT技術を活用したスマート農業をカリキュラムに取り入れており、現在のブランドの維持とともに、ブランドを生かした新たにチャレンジする担い手の育成にも取り組んでおります。</p> <p>山城地域のブランドである「田辺ナス」と「えびいも」については、新たな担い手を確保するためJA京都やましろの各生産部会が「ナス塾」、「えびいも塾」を平成22年度以降順次開講しています。普及センターでは、開講にあたっての塾のしくみづくりや運営方法、講義等を受け持つ等支援をしています。</p> <p>また、普及センターでは、自家農産物等のブランドの確立と販路拡大を目指す農業者や農業法人に対し、農業会議の専門家派遣制度も利用しながら企業の経営に向けて支援しています。</p> <p>ブランディングされた農作物や6次産業化で生まれた農産物加工品等の販路拡大については、京都府主催の商談会やその他の商談会等へ参加誘導を行っています。</p>
19	令和元年 8月5日 林業大学校	農林水産業の人 材育成	<ul style="list-style-type: none"> 現場実習が多く、たくさんの経験ができるのが魅力 身の回りのものでもっと木を使ったものを提案していきたい、まずは木のことを学ぼうと思い入学した。 土砂崩れが各地で増えているが、林業の仕事はこれを防止できる仕事。災害防止に役立ちたい。 	<p>林業大学校では、学生の皆さんに府内の現場でたくさんの経験を積んでもらうことが重要と考えており、令和2年度は新たに学生がインターンシップに参加するために必要な経費の一部の支援をしております。（「次世代林業を担う林業事業者体総合支援事業費」令和2年度当初予算（人材確保対策事業81,272千円）の一部）</p> <p>なお、令和元年12月に策定した「京都府農林水産ビジョン」においても、「林業の再生」と「防災・減災」の両輪によって、洪水の緩和や土砂災害の防止など機能を有した健全な森林を目指すための戦略をたてており、これに基づく取組を進めていきます。</p>
20	令和元年 9月8日 農家民宿「月あかり」	農家民宿・移住 の現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> 教育民泊、留学生の受け入れをきっかけに始めた。 農家民宿同士は協力して仲が良く、今後綾部に移住される方にも農家民宿をやって頂ければと思う。 定年したら田舎暮らしがしたいと思って移住した。綾部市には定住促進の窓口があり相談しやすかった。 都会に比べると情報発信のチャンネルが少ない気がする。 移住してきたら若い人がたくさんいて衝撃を受けた。子育てには良い場所。 単身で移住を希望する人も多いのでシェアハウスがあったらよいのではないか。 	<p>「農家民宿等魅力づくり事業」により農家民宿の開業支援や複数の農家民宿が連携する農家民宿村の形成等に取り組むとともに、森の京都DMOと連携した教育体験旅行の受け入れ体制の強化を図っているところです。</p> <p>また、「京都府北部いなか暮らし」魅力発信事業により、移住希望者のためのセミナーや体感ツアーを開催し中丹地域への移住促進を図るとともに、「京都府移住促進プロジェクト事業」による住宅改修やシェアハウス整備、起業のための施設整備など移住者に対する支援を実施しているところです。今後は、中丹地域の魅力や農家民宿体験メニューの情報発信の強化を図り、更なる移住促進・農家民宿経営支援の充実を図って参ります。</p>
21	令和元年 11月22日 ヘルス博	健康づくり(@ヘルス博)	<ul style="list-style-type: none"> 糖尿病であり、食べ物に困っている。コレステロールが高いと言われて食べ物や健康のことを知りたくて来た。 健康づくりには食事・運動・睡眠・笑顔が大事だと思う。 	<p>府民の皆様の健康寿命の延伸を図るため、人工透析が必要な状態になることを防止するための保健指導体制を充実させる「糖尿病重症化予防対策事業(きょうと健康長寿・データヘルス推進事業費)」を拡充し、令和2年度に5,800千円を計上しております。</p> <p>また、令和2年3月(予定)には、府民の皆様に健康情報をお届けするため、京都府HPの健康づくり対策のページを「知りたい情報」に容易にたどり着くようにカテゴライズされたページへとリニューアルしました。</p>

22	令和2年 2月4日 丹後織物工 業組合	若手ちりめん業 者と織物の未来 について語る	<ul style="list-style-type: none"> ・織り手の育成を頑張っているが、機械工などの職人が高齢となってきたため、精錬を含め、技術の継承が課題。人材育成の応援をしていただきたい。 ・また、丹後そのもの、丹後が日本最大のシルク製品の産地であるということを知って頂くなど、丹後のブランド力を高めるためのPR、応援をお願いしたい。 ・業界のリーダー的な会社も必要だが、差も出てきてしまっているので、全体のレベルを上げるための底上げという意味での(導入) 支援も考えて頂きたい。 	<p>丹後産地の生産基盤の維持等に向け、次世代を担う職人の育成を図るとともに、多能工育成のため、関係団体及び事業者等のニーズをお聞きしながら、製織工程、製織準備工程等幅広く人材育成研修を実施しております。(「丹後・西陣織物産地活性化事業費」令和2年度当初予算4,180千円)【H30年度 19コース 受講者延べ376人】</p> <p>また、関係団体と連携し、製織及び織機調整等の技術のアーカイブ化にも取り組んでいるところであり、今後も生産基盤の維持、技術継承のために取り組んで参ります。</p> <p>織物・機械金属振興センターにおいては、新商品開発や販路開拓をめざす事業者、グループに対して、ものづくり研修等を実施し、売れる商品づくりや販路開拓の支援を行っており、平成30年度実績として、依頼試験で3,354件、機器貸付で8269件、技術相談についても3,735件のご支援をさせていただいています。</p> <p>今後とも、織物・機械金属振興センター職員が新たな事業展開をめざす事業者が抱える課題等に寄り添い、技術相談や依頼試験、機器貸付等を通じて支援してまいります。</p>
23	令和2年 2月4日 舞鶴市政記 念館	新産業創出・成 長～舞鶴からの チャレンジ～	<ul style="list-style-type: none"> ・何か魅力があれば舞鶴にも人が集まってくる。赤レンガ以外にも観光に繋げる取り組みがあれば。(周遊観光) ・求人していても応募してくれる人がいない。(機械工) 	<p>大河ドラマによる管内観光への広域的波及や効果継続を図るため、メディアやインフルエンサー等を対象としたファムトリップや全国の明智光秀ファンのための特別感ある体験ツアーを実施し、SNSやマスコミを通じて中丹地域の魅力を発信いたします。(令和2年度当初予算2,800千円)</p> <p>そのほか、JR・丹鉄・兵庫県と連携し、但馬・丹後・中丹地域の広域周遊を促進するため、観光素材のブラッシュアップや地域イベントと連携した団体臨時列車の運行等を予定しております。</p> <p>また、令和2年度当初予算で111,300千円を計上している「食の京都推進事業費」においては、万願寺とうがらしなどの京野菜や岩牡蠣などの海産物をはじめとして、地域の注目食材を活用した魅力向上、消費地での認知度向上等を図り、「食」を通じて、舞鶴市をはじめとする各地域の活性化に積極的に取り組んでまいります。</p> <p>そのほか、5,000千円を計上している「大河ドラマ広域連携事業」においては、大河ドラマの放送を契機として、舞鶴市の豊かな歴史・文化についてもより広く情報発信していきます。例えば、現在、府内や近隣府県の『麒麟がくる』ゆかりの地を巡るスタンプラリーなど広域周遊の取組も進めています。</p> <p>さらに、9,838千円を計上している『もうひとつの京都』情報発信事業において、東京オリンピック・パラリンピックやワールドマスターズゲームズ2021などのビッグイベントの機会を通じて、インバウンド等の観光客を呼び込むための情報発信を強化するとともに、舞鶴市はウズベキスタン共和国の東京オリンピック・ホストタウンとなっており、人的・経済的・文化的なあらゆる面での交流が今後より一層期待されるため、受入環境の整備等を進めていきます。</p> <p>令和2年度当初予算において45,000千円の予算を計上している「多様な働き方推進事業費補助金」において、時間単位の年休制度やテレワークの導入など、府内中小企業が実施する誰もが働きやすい職場づくりに要する費用の一部を助成することで、人手不足が顕著な府内中小企業の人材確保及び定着を促進していきます。</p> <p>また、「就労・奨学金返済一体型支援事業補助金」では20,000千円の予算計上し、奨学金を返済する従業員に手当を支給する府内中小企業に対し、その費用の一部を助成することで、府内中小企業の人材確保・定着及び若者の負担軽減を促進していきます。</p> <p>北京都ジョブパークでは、「北京都ジョブパーク機能強化事業」で28,724千円の予算計上し、企業・事業所様の魅力向上を図るため、求人内容のブラッシュアップや記載方法のアドバイス、就労環境改善に向けたコンサルティングなどを行っており、その成果として1月末時点で、北京都ジョブパーク所管エリアの20の事業所が、京都府が進める「子育て環境日本一に向けた職場づくり行動宣言」を行い、誰もが働きやすい職場づくりに取り組んでいます。さらに、ハローワークを会場とした合同企業説明会や面接会の開催など、人材確保に係る支援にも取り組んでいます。</p> <p>そのほか、KBS京都 京bizX「キラッと輝く」カンパニーにおいて、機械工として多くの女性が働く京丹後市の企業を西脇知事が訪問した内容が放送されるなど、様々な媒体を活用し、製造業で働く魅力を発信しています。</p>